



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成20年(2008年)9月16日 第33号

「ニキ・リンコ」さん

私は日ごろ電車通勤をしています。電車の中では、何もしないでじっとしていると、なぜか落ち着かず、不思議と本が読みたくなってしまいます。

まず、メガネを取り出してかけるという動作が一つ。しばらく前から増えていますが、このことにもずいぶん慣れてきました。読むものは何でもいいのですが、最近「ニキ・リンコ」さんにはまっています。大阪府教育委員会の方に情報を教えていただき、職場で『俺ルール！自閉は急に止まれない』（花風社）を貸してもらったのがきっかけでした。

「ニキ・リンコ」さんは翻訳家で、代表作に『片付けられない女たち』（WAVE 出版）があります。幼い頃から周囲との違和感を覚えながら育ち、30代になってアスペルガー症候群と診断されました。発達障害と診断を受け、幼い頃を振り返り、成長過程の中でどのように感じ、どのように考えてきたかを当事者として文にしておられます。その内容は、一言で言えば

「おもしろい！」

笑えるし、びっくりするし、感心するし、勉強になるしといった様々な要素が含まれています。発達障害の方々は、

「何かしてもらいよりも、まずは正しく理解して欲しい！」と言われます。その意味がわかってきたような気がします。



そこから興味が膨らみ、『自閉っ子、こういう風にできてます！』（花風社）をはじめ、6冊をまとめ買いして読んでしまいました。

この夏に行かせていただいた校内研修の場や、最近お会いした方々に、「お勧めですよ！」

と、半ば押し付けるように紹介しています。

先日も新聞で、大東市の子どもさんとお母さんとの日常を綴った著書「うわわ手帳と私のアスペルガー症候群」（かもがわ出版）を出版したという記事がありました。発達障害の方の出版物もたくさん見かけるようになってきました。センターの貸出し可能な教育図書の中にも、発達障

害に関する本がありますので、またご利用ください。

読書の秋です。みなさんもまずは一冊、何か読んでみませんか？

私もマイブームを続けてみようと思っています。

(井角)

＜教育センターにある貸出し可能な本＞

- 「高機能自閉症・アスペルガー症候群入門」（中央法規）
- 「ADHD・LD・高機能PDDのみかたと対応」（医学書院）
- 「教室でできる特別支援教育のアイデア小学校編」（図書文化）
- 「教室でできる特別支援教育のアイデア中学校編」（図書文化）
- 「LD、ADHDなどの子どもへの場面別サポートガイド」（ほんの森出版）
- 「LD、ADHDなどの子どもへのアセスメント&サポートガイド」（ほんの森出版）
- 「個別の指導計画作成ハンドブック」（日本文化科学社）
- 「特別支援学級の Good Practice」（ジアース教育新社）
- 「自閉症の特別支援 Q&A マニュアル」（東京書籍）
- 「個別の教育支援計画の策定と活用」（ジアース教育新社） 他

教育相談の現状

教育相談の延べ件数は年々増加しており昨年度は9245件と過去最高の件数になりました。相談内容としては、子どもの行動や自閉傾向、不登校等の相談が多く、ここ数年同じような傾向が続いています。

また、昨年度来所された総ケース数は668ケースで、年々小学生が増加し、400ケース近くになりました。小学校1校につき、平均して9名程度の子どもたちが相談に来ている割合となっています。

教育センターでは、保護者の了解の上、学校園との連携も行っています。校長先生を通してお申し込みください。

土曜相談・発達相談

平日の相談のほか、土曜相談や発達相談も実施しています。いずれも1回のみ相談として設定していますが、子どもの心理・不登校・心身の発達等に関する悩みについて来所による相談を行っています。継続的な相談が必要な場合は、平日相談や適切な機関を紹介しています。

気になる子どもへの支援のヒント

教育相談係では、学校の中での気になる子どもの姿を提示し、その子どもの見立てや支援方法等についてまとめた冊子を作成中です。その一部（当番活動の支援のポイント(掃除編)）を紹介します。

＜掃除場面で動かない子や違うことばかりする子へのかかわり —自信や意欲を育てる声かけ—＞

何がよかったのかわかるように具体的にほめる。

一番に始めてくれてありがとう



いつもがんばってくれてるね



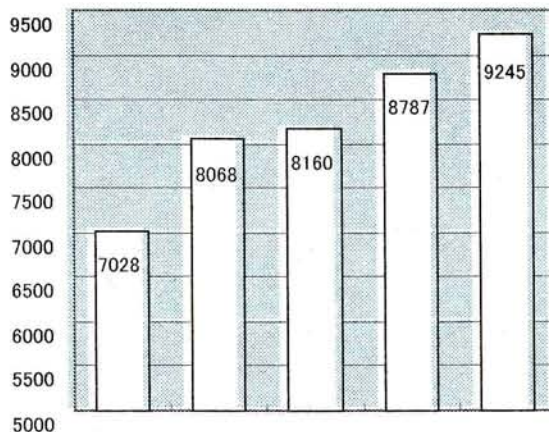
こまめに声かけをして「それで大丈夫だよ」というメッセージを送る。

「やって当たり前」と思わず、本人が自発的にした行動は積極的にほめ、次への意欲につなげていく。



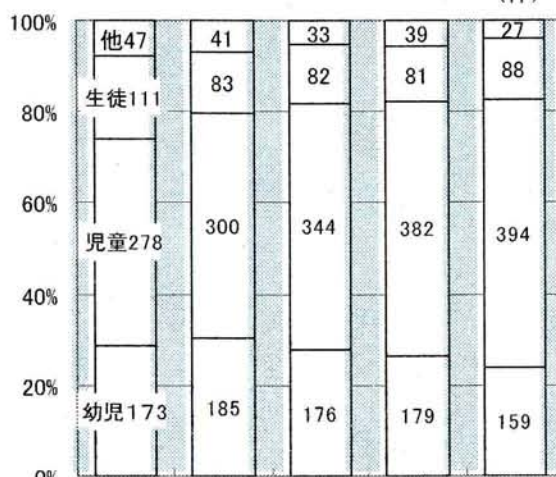
〇〇さんのおかげで黒板がピカピカ、気持ちいいね!

延べ相談件数



15年度 16年度 17年度 18年度 19年度

ケース数と内訳の割合



15年度 16年度 17年度 18年度 19年度

教育相談事例冊子3月発行予定

教育相談研修

夏季休業中、井上序子先生をお招きし、教育相談研修を実施しました。

今年度は、事例研修を発達段階に応じて実施しました。その内容の一部を紹介します。

◆講義 「気になる子どもの見立てとその支援」 <7/22実施>

◆事例研修 「子どもを見る視点と教師の関わり方」

幼児～小学4年までの子ども <7/28実施>、思春期の子ども <8/1実施>

- ・ 発達段階の大きな境目の1つとして、小学校4年と5年の境目がある。
- ・ 4年生以下の子どもの問題行動は、愛着障害も視点に入れ家庭や保護者のアセスメントも必要。(発達障害と愛着障害については、eひろばの第27号参照。教育センターHPに掲載)
- ・ 5年生以降は、自立支援を中心に対応を変えていく必要がある。家庭の問題も自分のこととして考えられる時期である。自分をしっかり見つめ、自分の力をつける必要がある。非行問題も出だす時期で、だめなことはだめときっちりした指導が必要である。
- ・ 思春期の子どもは、構われても腹が立つし、構われなくても腹が立つ時期である。子どもの言動に目を向け、サインはサインとして受け止めておく。ある程度距離を置きながら、シンプルに関わることも必要である。
- ・ 子どもの課題解決だけに目を向けて対応していると、先生が疲弊するばかりで、状況の改善がなかなか見られないこともある。今できていることを維持したり、ワンポイントに絞り、スモールステップでできたことを実感したりするような対応も大切である。

とよなか「学び」プロジェクト研修

田尻教授 熱く語る！ <8/11実施>

「fast learners(早くできた子ども)をどう生かすかでクラスの状況が変わる！」
このように、田尻先生は、早くできた子に次の課題をきちんと用意しておくことが、授業の工夫改善のポイントになると話されました。

学ぶ「楽しさ」には、「考える楽しさ」「気がつく楽しさ」「異なる楽しさ」「主張する楽しさ」「メディア等を使用する楽しさ」等があります。そのことを授業を通して子どもたちに気づかせること、そしてこの楽しさを体感させつつ、教え合いの活動を取り入れることで、子どもたちが授業に主体的に参加しようとする芽を育てていくのです。このような指導のもと、普段は自分のことを語らない生徒たちが、次々に英語を通して自分を表現していく様子を授業記録ビデオを通して見せていただきました。

研修会后、田尻先生は「それぞれの学校のベテランの先生が、ご自身の豊かな経験を伝えていくことが、若い先生方の大きな力となりますね」というメッセージを残され、教育センターを後にされました。



理科展と科学教室

《教育センターにて開催 ご参加をお持ちしています。》

- ◆ 理科展・・・9月17日(水)～21日(日) 10時～19時(土日は17時まで)
 - ◆ 科学教室・・・9月20日(土)・21日(日) 11時～ (申込み当日10時～)
- 各日とも、4講座開催します。

～ライオンは寝ている？～

以前、友人がアフリカのケニアまでサファリ旅行に行ったときの写真を見せてもらったことがあります。地平線までサバンナが広がり、迫力ある大自然の写真に混じって、何枚もの野生動物の写真を見たのですが、その姿にちょっとびっくりしました。確かにシマウマなど草食動物は、警戒心も強く、写真からも野生動物らしい緊迫感が漂ってきていたのですが、反面、そこに写っているライオンのだらしないこと。「野生の王国」みたいな風景を想像して見ていたのに、動物園で昼寝ばかりしているライオンかと思うほどのだらけぶりだったのです。

百獣の王と呼ばれるライオンですが、実は狩りをするのは1～数日に1回程度なのだそうです。もちろん、獲物をしとめなければ飢えて死んでしまいますから、狩りは真剣勝負です。追われる方も命がけですので、失敗することも多く、獲物を捕らえるのは大変なことです。けれど、一度狩りが成功して満腹になると、その後はひたすら寝ているらしいです。つまり、狩の上手なライオンほど、たっぷりと太って、実にだらしく寝ているというわけです。

天敵のいないライオンだからこその態度ではあるのですが、野生の動物と言え、常に緊張感を持って暮らしているような印象があった私としては、かなり驚きを感じました。

学校現場ではどうでしょう。子どもたちに「全力投球」を求めることもあるのではないのでしょうか？全力を傾けて物事に取り組むことは、教育上大変重要なことと思います。しかし、常に緊張感を持ち続けることは難しく、いずれは息切れしてしまいます。集中力は、集中しない時間を十分持つことで、逆に高めることができるのかもしれませんが。よく見れば、一流のスポーツ選手も、バットを振る瞬間の少し前やシュートを決める少し前に、一瞬脱力したような動きを見せることがあります。上手に力を抜くことで、次の瞬間に最大の力を発揮しているのでしょう。

仕事や勉強には全力投球をするが、休む時にはゆったりと休む。授業やクラブ活動の中でも、時としてリラックする合間を作って、緩急をつけながら課題に取り組むことが、百獣の王の悠然たる姿に近づく秘訣なのかもしれませんね。

(春原)

